



文化に関わってきたおかげで
いろいろなことを学びましたが
まだまだ足りないことだらけです



HITO

大室吉蔵さん (狭山市文化協会会長)

大室さんはこれまで、狭山市の発展のためにたくさん功績を残されています。主な活動は公衆電話会会長、青色申告会会長、そしてこの3月、さらなる発展のために解散となる文化協会の会長です。公衆電話会とは、まだ電話というものが全く普及していなかったころ、最初に街角に取り付けられた、俗に言う赤電話を普及させるためにできた団体です。当時、今の柏原工業団地の辺りは雑木林ばかりで、そこに開拓団の人たちが20軒くらい住んでいたそうです。そしてそこが孤立してしまうというので、公衆電話の設置に協力したのが、公衆電話会だったのです。これにはこんなエピソードがあります。

大室さんは、文化活動の功績により、昨年11月に市の文化功労表彰を受賞されました。また、今年の2月には、その功績が県でも評価され、文化ともしび賞を受賞されました。おめでとうございます。これからも健康に留意され、さらにご活躍いただきたいものです。

「ある日、1軒の家で子どもさんが誤ってぬい針を飲み込んだりしたんです。さあ大変だって言っんで、公衆電話で医者連絡をとったそうなんです。これがおそろしく初めての救急電話だったでしょうね。幸い子どもは助かって、私もよかったですね。と思いましたが、こんなとき、大室さんの優しい目がちゃんと細くなります。また、青色申告会でもこんなことが。」

「当時、申告なんてまだ市民生活に根ついていないから、勧めに行っても、大室さんに『夜、仕事が終わって一杯飲もうってときに、帳面なんてつけてたら人生がなくなっちゃうよ！』なんて言われましたね。そして、申告が普及してくると今度は親御さんの財産目当てで、どうしたら自分のものができるかなんて相談に来る人がいたんです。私は、まだ親が元気で生きているうちから、そんなものを狙うなんて！って、説教しちゃったんですよ。」

「今日の効率優先の事務からは考えられないほど、人間的な、温かいエピソードです。また、大室さんは文化協会の会長としても、30年以上も活躍されています。でも、その功績を敬って、冒頭のような言葉が返ってきました。」

大室さんが歩まれた数々の団体の活動は、ほとんどがボランティアです。しかし、大室さんは『なぜ、ここまでできたか、続けられたか、って聞かれても…そうねえ、当たり前なことを自然にやっていただけだから…ほかに何もないですよ。』と微笑みます。その柔和なお顔が、まさに『自身の人生を物語っているよ』でした。

植物・生き物 / しょくぶつ・いきもの

さやまの生態系

アリスイ

(キツツキ目キツツキ科)

全長約17cm。全体に灰褐色で赤褐色・褐色・灰褐色・黒色の細かい縞模様や斑点があり、頭上から背中央に黒帯があります。そして他のキツツキのように尾羽は硬くなく、一般の鳥のように横枝に止まります。ユーラシア大陸中部からアフリカ北部にまで分布し、冬期はアフリカ中部やインドおよびアジアの温帯・熱帯に渡ります。市内では人間川の河川敷で冬期に観察されることが多いようです。地上でアリの巣を探し、長い舌のねばねばした先端で、アリやその卵を捕食しています。



撮影：県生態系保護協会狭山支部 矢内昭夫さん(水野)